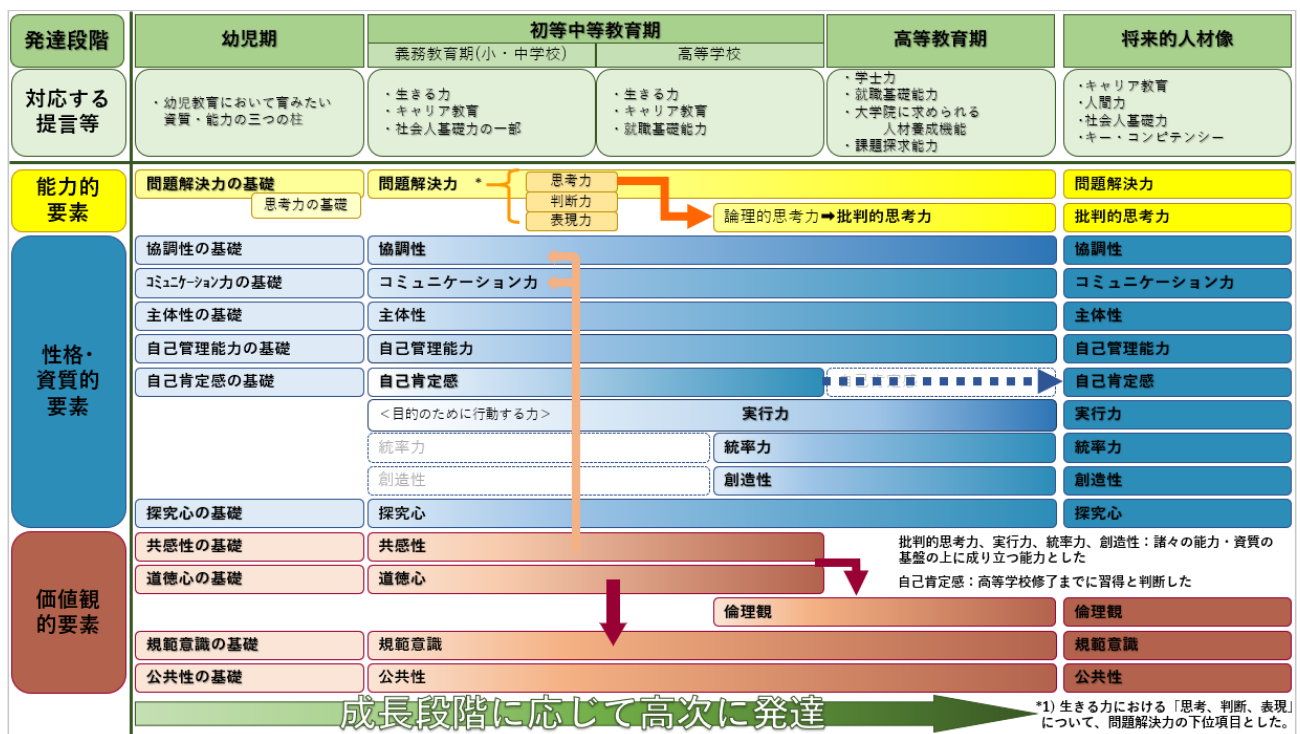


非認知スキルと発達の関係は？

生涯総研では2018年発表のレポート（非認知能力の概念に関する考察1）において、非認知スキルと発達の関係について考察しました。「幼児期から成人まで共通して求められる基本的能力があるのか」「発達段階において求められる能力は変化するものなのか」「どの発達段階でどのような能力の習得が求められているのか」などの観点から、各提言等をもとに整理し図にまとめました。

参考にした提言等：①文部科学省「生きる力」（1996年）②文部科学省「課題探求能力」（1998年）③内閣府「人間力」（2003年）④OECD-DeSeCo「キー・コンピテンシー」（2003年）⑤厚生労働省「就職基礎能力」（2004年）⑥文部科学省「大学院に求められる人材養成機能」（2005年）⑦経済産業省「社会人基礎力」（2006年）⑧文部科学省「キャリア教育(社会的・職業的・自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力)」（2006年）⑨文部科学省「学士力」（2008年）⑩文部科学省「幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱」（2016年）

各発達段階において習得が要求される非認知スキル



各非認知スキルの発達における特長は以下のとおりです。

非認知能力の分類	該当する非認知スキル
1) 諸々の能力、資質の基盤の上に成り立つ能力	批判的思考力 実行力 統率力 創造性
2) 発達の過程で確立される能力 *1	自己肯定感
3) 発達段階に応じて変容・発展する能力	共感性 道徳心 倫理観
4) 一貫して必要とされている能力 *2	問題解決力 協調性 コミュニケーション力 主体性 自己管理能力 探究心 規範意識 公共性

*1 初等中等教育期までの教育で確立され、それ以降、様々な能力を発揮する際の基盤として必要

*2 幼児期から一貫して教育が必要とされており、発達段階に応じて高次に発達